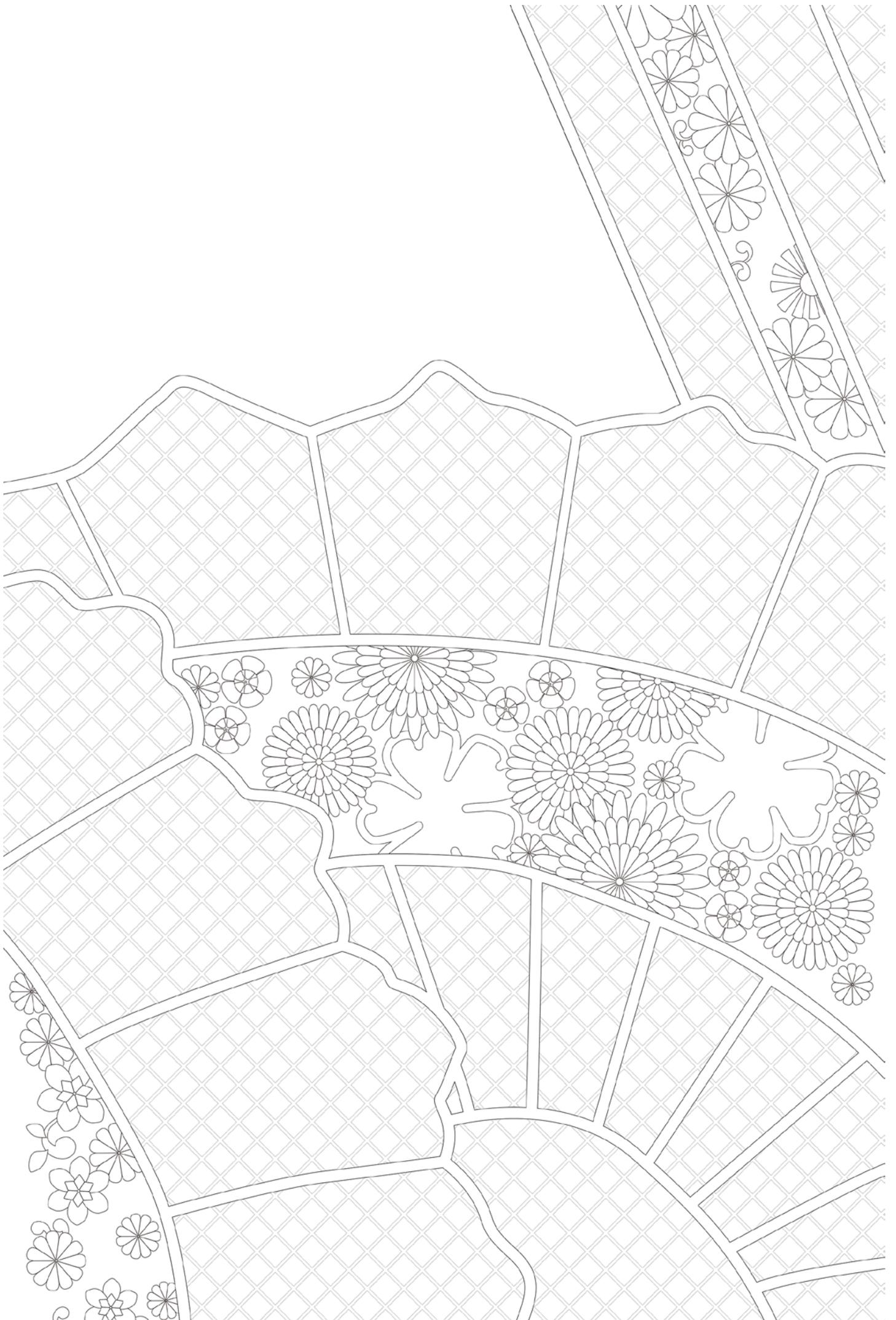




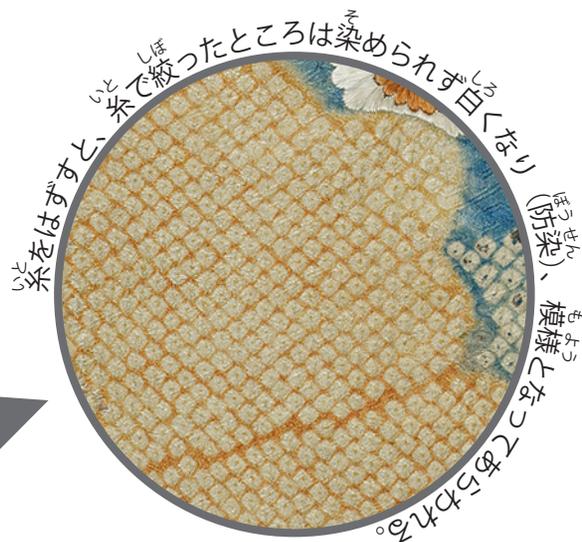
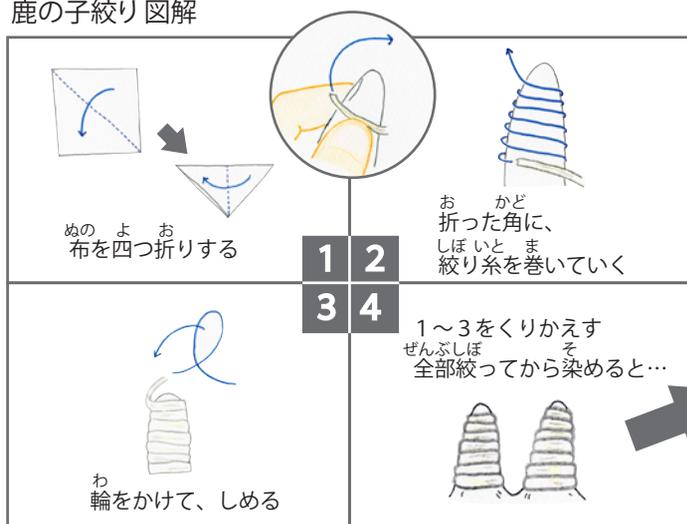
Kosode fragment with design of chrysanthemums, Late 17th century, Nagoya City Museum



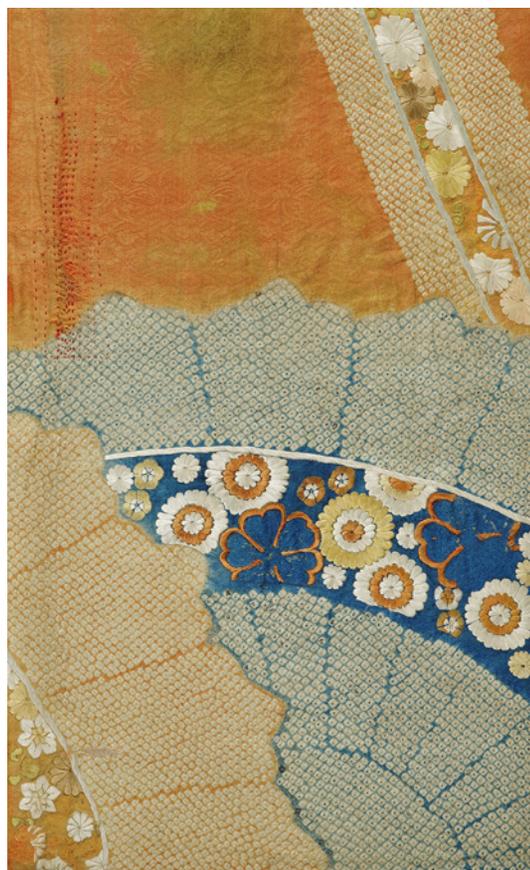
Kosode fragment with design of chrysanthemums, Late 17th century, Nagoya City Museum

江戸時代、17世紀後半（300年ほど前）の着物につかわれていたデザインを、ぬりえにしてみました。
 名古屋をルーツとする松坂屋百貨店が、商品の参考にするために集めたコレクションが元となっています。どちらも着物の一部（これを裂と呼びます）で、菊の花がデザインされた、はなやかな作品です。朱色や金色などの糸や、青色の染料を使って菊をあらわしています。
 白い点々の部分は、糸で布をくってから色を染める「鹿の子絞り」という、大変手間のかかる技法を使ったものです。鹿の子風にぬるのもよし、自由にデザインするのもよし。挑戦してみてください。

鹿の子絞り図解



菊模様小袖裂 名古屋市博物館蔵（松坂屋コレクション）



菊模様小袖裂 名古屋市博物館蔵（松坂屋コレクション）